

令和3年度みんなで作る福祉のまち川越プラン 総括シート

<取組実績の指標>

基本目標1 地域福祉のきっかけづくり

1-1 「おたがいさま」の心を育む

	◎	○	△	×
市・市社協	4 (20.0%)	13 (65.0%)	2 (10.0%)	1 (5.0%)
地域	6 (23.1%)	12 (46.2%)	4 (15.4%)	4 (15.4%)

1-2 交流の機会を増やす

	◎	○	△	×
市・市社協	5 (35.7%)	4 (28.6%)	5 (35.7%)	0 (0.0%)
地域	9 (18.4%)	23 (46.9%)	15 (30.6%)	2 (4.1%)

基本目標2 支え合いの縁(円)づくり

2-1 担い手を支援する

	◎	○	△	×
市・市社協	3 (18.8%)	9 (56.3%)	1 (6.3%)	3 (18.8%)
地域	4 (26.7%)	6 (40.0%)	1 (6.7%)	4 (26.7%)

2-2 寄り添い支え合う取組を支援する

	◎	○	△	×
市・市社協	4 (28.6%)	8 (57.1%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)
地域	7 (20.0%)	14 (40.0%)	9 (25.7%)	5 (14.3%)

2-3 分野を超えて協力する

	◎	○	△	×
市・市社協	5 (41.7%)	7 (58.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
地域	5 (31.3%)	7 (43.8%)	4 (25.0%)	0 (0.0%)

基本目標3 不安の少ない暮らしづくり

3-1 安心して暮らし続けられるようにする

	◎	○	△	×
市・市社協	11 (47.8%)	11 (47.8%)	1 (4.3%)	0 (0.0%)
地域	3 (30.0%)	6 (60.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)

3-2 もしものときに備える

	◎	○	△	×
市・市社協	2 (28.6%)	4 (57.1%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)
地域	17 (35.4%)	19 (39.6%)	8 (16.7%)	4 (8.3%)

○自己評価

総取組数305の内訳は、◎：85 (27.9%)、○：143 (46.9%)、△：53 (17.4%)、×：24 (7.9%)となった。概ね順調と言える。特に基本目標2-3「分野を超えて協力する」については、福祉総合相談窓口の周知も進み、断らない相談体制を推進でき、大きな成果を上げることができた。×の主な理由は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるものである。コロナ禍も3年目となり、地域によって対応は分かれているものの、今後はコロナと共存する形で事業を実施できるよう検討していく必要がある。

<アンケート調査に基づく指標>

令和3年度に実施した川越市市民意識調査と令和元年度に実施した計画策定に係る基礎調査の結果を比較します。

基本目標1	R3	R元	比較
福祉への関心：「関心がある」の割合	59.2%	45.3%	↑13.9pt
基本目標2	R3	R元	比較
地域活動への参加状況：「現在、参加している」の割合	4.2%	8.6%	↓4.4pt
地域活動への参加状況：「今後、参加したい」の割合	29.9%	16.4%	↑13.5pt
基本目標3	R3	R元	比較
今住んでいる地域：「住み続けたい」「どちらかと言えば住み続けたい」の割合の合計	87.5%	84.3%	↑3.2pt

○分析

福祉に関心がある割合や地域活動に参加したいと考えている人の割合は増えているが、現在参加している人の割合が減少している。コロナ禍の影響により活動を控えていたことによると考えられるが、どんな状況においても参加しやすい環境づくりが課題であると考えられる。

○重層的支援体制整備事業の評価

令和3年度実績

【全体】

- ・川越市重層的支援体制整備事業実施要綱制定
- ・川越市における重層的支援体制整備事業の概要（重層的支援体制整備事業実施計画）の策定

【各事業】

○包括的相談支援事業

福祉総合相談窓口を中心に、属性や世代を問わず相談を受け止め、支援を実施。相談窓口は介護・障害こども・困窮部門それぞれに設置。複雑化・複合化した課題については、多機関協働事業につなげた。

○参加支援事業

市内全地区にCSWを配置し、分野を問わない多世代交流の居場所づくりや担い手の養成等に努めた。多機関協働事業が上がってきたケースについて、居場所づくりを検討、提案した。

○地域づくり事業

市内全域に配置されたCSWが、地域活動の創出や場づくりといった地域支援に尽力した。また、介護・障害・こども・困窮部門それぞれにおいて、川越市独自の事業を実施した。今後は、分野間での連携を推進出来るよう検討していく。

○アウトリーチ等を通じた継続的事业

22地区すべてに2名ずつCSWを配置し、ニーズの掘り起こしやアウトリーチ支援を実施した。多機関協働事業とも連携。

○多機関協働事業

福祉推進課が中心となり多機関協働事業の検討会、関係課長会議等を開催。川越市における多機関協働事業マニュアルを作成。重層的支援会議を開催し、複雑化・複合化したケースの検討を行った。

○川越市社会福祉審議会地域福祉専門分科会の意見

- ◆1年目としての進捗状況は、評価シートから把握できた。
- ◆以下のとおり、評価の仕方について指摘する。
 - ・◎と○についての基準を明確化してほしい。
 - ・取組実施の有無のみの記載があり、成果の有無も含めた記載にほしい。
- ◆重層的支援体制整備事業について、支援体制については確立されつつあり、そこは評価できる部分であるが、事業の周知等課題も多くあるため、さらなる推進が必要である。